

～郷土資料館展示資料から～

リサイクルな 土器

大量生産、大量消費社会における「ごみの分別やリサイクル」は、地球規模で問題になっている温暖化防止への私たちの身近な取り組みです。考えもしなかった様々な物が、使い捨て商品として出現し、便利な生活になった一方で、「物を大切に使う」という意識が薄れていったのも事実かと思えます。現在、資源・環境保護の観点から、使い捨てを反省し、再循環・再利用いわゆるリサイクルが、盛んに行われています。

さて、今回ご紹介するのは、**浜別海遺跡**出土の**擦文時代の土器**です。高さ 20 cm、口径 20 cm、底径 5.5 cmの深鉢形の土器です。ひび割れの左右に5ミリぐらいの穴が開いています。これは**補修孔（ほしゅうこう）**とって、使っていた土器の一部が壊れたとき、穴と穴をひも（木の樹皮とか鹿等の獣皮のひも等）で結んで補修するために開けた穴なのです。この状態では土器に水等を入れられないので、木の実や山菜等の貯蔵用の容器として再利用したと想像されます。

このような利用方法は、縄文時代からあり、ひびが入った部分にアスファルトを塗布し補修した土器や、破片を炉の地面に埋込み使用するものなどもあります。その他、石器や骨角器の中にも一部欠けたり、折れたりした時に加工し直して、引き続き使用しているものもあります。

このように古代の人々は、物を最後まで大切に使っていたのです。まさに、リサイクルであり、未来の人々へいろいろなアドバイスやメッセージを残してくれます。



補修孔

拡大



●**土器** およそ 1 万 6000 年前（ただし、この年代は流動的である）に作られた。低温（600～800℃）で粘土を焼いて作り、食べ物の煮炊き・貯蔵などに用いられた。

●**浜別海遺跡** 昭和 46 年（1970）に国道改良工事により緊急発掘調査が行われた。縄文時代（中期）～アイヌ文化期の遺跡で、擦文時代を主体とする。別海中学校裏手にあたり、現在も未調査の竪穴住居のくぼみが確認できる。

●**擦文時代（さつもんじだい）** 北海道で 8 世紀末ごろから 13 世紀まで続いた時代である。本州では奈良・平安時代。本州の土師器の影響を受けた擦文土器を特徴とする。

「オジロワシ・オオワシ観察会」のご案内

毎年、恒例となりました「オジロワシ・オオワシ」の観察会を右の通り実施します。

越冬のため風蓮湖に集結するワシの数は国内でも最大で、その雄大な姿は見るものを圧倒します。

この機会にぜひ、ご覧下さい。



(当館所蔵「オオワシ」剥製)

見にきてね!



冬の野鳥観察の楽しみ方(バードテーブル)

山に餌がなくなる冬期間にバードテーブルを置いておくとたくさんの鳥たちが、集まってきます。

野外で行う野鳥観察よりじっくりと見ることが出来、鳥によって食べる餌の種類が違うこともわかるかと思えます。

図鑑を片手に観察するとさらに楽しみが倍増すると思えます。

すでに設置済で、写真や記録などをとっている方がいましたら資料提供願います。



シジュウカラ

●日時 平成20年2月16日(土)
午前9時～12時

●集合場所 郷土資料館または本別海地域センター

●講師 別海町郷土研究会会長 渡辺 昇 氏

●日程

9:00 郷土資料館前集合

9:30 本別海地域センター前集合

9:40～11:00 観察(風蓮湖・走古丹漁港)

11:00 現地解散 11:15 本別海着、解散

11:40 郷土資料館着、解散

●定員

20名(定員になり次第締め切ります。)

●申込み受付期間

平成20年2月15日(金)まで。

●その他

- ・当館または本別海地域センターのいずれかの場所に時間までに集合して下さい。車は当館でも用意しますが、自家用車での参加も可能です。
- ・双眼鏡をお持ちの方は持参してください。

●お申込み・お問い合わせ

当館まで、電話・FAX・e-mail でお願ひします。

その際、車の利用(自家用車かあるいは当館の用意する車か)と集合場所についてもお知らせ下さい。

1月のお知らせ

●休館日

1日～6日・14日・19日
20日・28日

●開館時間

午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

●観覧料

一般個人 300円
一般団体(10名以上) 240円
高校生以下は無料となります。

別海町郷土資料館だより No.102

発行日 平成20年1月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 2007年は、移動展・出前講座など「動く博物館活動」を目標に事業など行ってきました。多少にぶい動きもありますが、2008年も引き続き「動く」ということを念頭に置きたいと思ひます。館の展示も少しずつ更新しており、現在考古コーナーからプチリニューアルを進めています。なんとか「動き」を見せたい? (石渡)